

テーマ エコ・イベントの事業化

木更津総合卸商業団地協同組合 組合員企業

株式会社イベント・コミュニケーションズ

本会では、「中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律（中小企業新事業活動促進法）」に基づく中小企業者の経営革新への取り組みを支援しています。

このコーナーでは、本会の会員組合の中から、自社の創意と熱意が込められた「経営革新計画」の策定にチャレンジし、千葉県知事から承認された企業をご紹介します。

経営革新計画とは？

「中小企業新事業活動促進法」に基づき、中小企業者が新たな取り組みを行う際に作成するビジネスプラン（事業計画）のことです。計画期間は3年から5年の間で選択いただけます。このビジネスプランを千葉県（経営支援課）に提出（申請）して承認を受けることで、計画の実現を後押しするための様々な公的支援策（政府系金融機関の低利融資、信用保証の特例、課税の特例、販路開拓等）の活用が期待できます。

新たな取り組みの成否は、実現性の高い行動計画をプランニングできるかどうかにかかっていると一言でも過言ではありません。

また、自力を頼りに新事業展開を図るよりも、公的なサポートを上手に活用した方が遥かに効果的と言えます。

皆さまの組合でも、会員企業の経営革新をぜひ応援して下さい。「経営革新計画」の策定は本会が無料でお手伝いします。

申請のやりかた？

当社は平成4年3月2日に創業、イベントの企画・運営及び機材のレンタル等を主業務としている。今回、当社が新たな取り組みを企画した背景だが、近年、地球環境に対する意識が高まり、資源のリサイクルやリユース、またゴミの減量などを実践する取組みが広がっており、弊社の主事業であるイベント業界にもその影響が及んでいる。そのため、環境に配慮した地球に優しいイベントをエコ・イベントと命名し、取り組み始めた。

テーマ及び内容は？

1. テーマ

「エコ・イベントの事業化」

2. 計画期間

▽平成20年11月～平成24年2月（4年計画）

3. 付加価値額の向上

▽計画時 143,061千円

▽計画終了時の目標伸び率76.6%

4. 内容

通常のイベントに環境という付加価値を加えたイベント。具体的には、ごみ、交通、省資源・省エネルギー、環境啓発、運営体制の5項目において、イベント主催者、関係者、当社がそれぞれ環境に配慮した役割を担うような枠組みを提案する。

取り組みは？

エコ・イベントの具体的特徴（他のイベントとの相違点）

(1) 看板などの制作物の再利用化

看板やパネルの廃棄物化を失くすため、エコ・イベントでは看板やパネルは廃棄せず、作った看板を保管し、複数年使用したり、レンタルしたりするなど、次年度以降も使用する

(2) 備品の再利用化

備品の廃棄物化を失くすため、エコ・イベントではイベントで使用する備品を次年度以降も使用する。

(3) 環境配慮製品のレンタル化

一般的に環境配慮製品はそうでない製品より高コストになる傾向がある。しかし、当社はレンタルにより環境配慮製品をローコストで提供する。

成果は？

当社はエコ・イベントを実施したことにより、コストダウンの実現、ローコスト提案の実現、看板受注や保管料など新たな売上の発生、環境配慮型レンタル商品数の増加といった効果があった。また、エコ・イベントという一つの方向性を示したことで、「ISO14001」の取得に繋がった。従業員の意識の向上や新たな知識の習得であったりと色々な分野が活性化された。

社長からの一言

今回のエコ・イベントと環境配慮製品のレ



▲ 電動自転車のレンタル化（千葉県内の観光協会などで好評）

ンタル化は、近年の環境への意識の高まりに後押しされる形で、思った以上にイベント主催者や来場者の皆さんに受け入れてもらいました。又、環境配慮製品のレンタル化では、電動自転車のレンタル化が観光地のホテルや観光協会の方々に好評を頂き、非常に高稼働率が続いています。ISO14001取得もお客様への差別化や従業員への意識の向上にも大変役立ちました。今後も環境に配慮したイベントや環境配慮製品のレンタル化を積極的に進めて行きます。

中央会から

◎ 「経営革新」で適者生存を図る！

会社の現状（今の姿）に対して、目標とする姿、将来こうありたいと描く姿に達するためには、従来のやり方や考え方などを見つめ直し、新たな視点や観点から課題に取り組みることが肝要と考えます。

一昔前ならば、過去の取り組みや実績を参考に、今年、来年を見据えることが可能だったかもしれません。しかし今の時代は違います。将来を見据えたビジョンの策定と実行と評価と改善・見直しにより、ビジネス活動における「PDCAサイクル」を実直に回し続けることによる、環境変化への積極的な適応が求められています。

かつて米MLBでセットアッパーからクローザーとして大活躍した長谷川滋利投手は、著書「適者生存」の中で、「自分は野茂やイチ

ローのような「超一流」ではない」と述べ、それでも自分が成功できたのは、自分に「アジャストメント（環境に適応）する能力があったからだ」と自己評価しています。彼は、頭で考え、イメージし、実行を繰り返すことで、強者ではなく適者として生存競争を勝ち抜きました。

経営革新に挑戦することは、まさにこうした積極的な自己変革に他なりません。経営革新で新たな活路を見出しませんか。

◎ 経営革新計画に係る相談は、本会経営支援部まで。☎043-306-3282



▲ ISO 認証取得を PR（本社社屋）

企業プロフィール

組合名：木更津総合卸商業団地協同組合
 企業名：株式会社イベント・コミュニケーションズ
 代表者：太田 一哉
 所在地：木更津市潮浜1丁目17番地20号
 電話番号：0438-30-2611
 資本金：10,000千円
 従業員数：33名
 業種：物品賃貸業
 E-mail：kisarazu@eventcom.jp
 URL：www.eventcom.jp/index.html
 承認年月日：平成20年10月31日
 支援機関：千葉県中小企業団体中央会